

今週の為替相場見通し(2017年8月28日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.64 ~ 109.85	109.43	108.50 ~ 110.50
ユーロ	(ドル)		1.1731 ~ 1.1941	1.1918	1.1800 ~ 1.2050
(1ユーロ=)	(円)		127.84 ~ 130.43	130.35	128.50 ~ 132.00
英ポンド	(ドル)		1.2774 ~ 1.2916	1.2892	1.2700 ~ 1.2950
(1英ポンド=)	(円)	*	139.31 ~ 141.04	140.90	139.00 ~ 142.00
豪ドル	(ドル)		0.7866 ~ 0.7954	0.7934	0.7850 ~ 0.8100
(1豪ドル=)	(円)	*	85.94 ~ 86.98	86.76	86.00 ~ 88.00

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1)今週の予想レンジ: 108.50 ~ 110.50 円

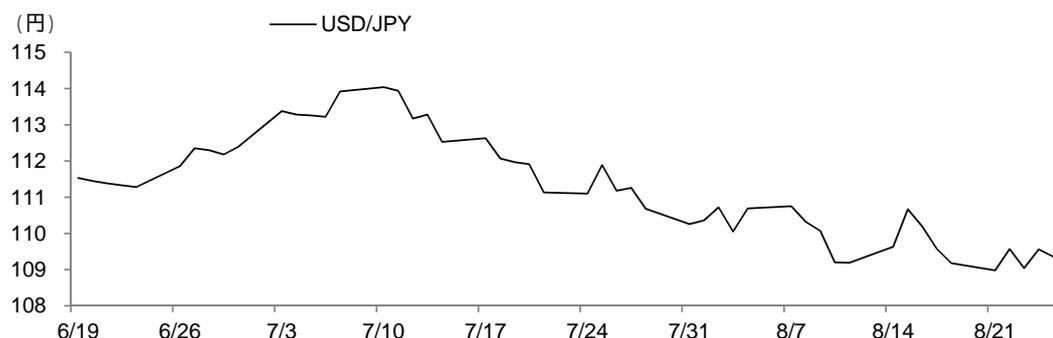
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は週末のジャクソンホール会議での要人講演を控えてレンジ推移する展開。週初21日、ドル/円は109円台半ば水準にてオープン。前週に報じられたバノン米首席戦略官の解任によるドル上昇は一巡し、上値重く推移。米国時間には週安値となる108.64円まで下落。翌22日、目立った材料に欠く中、米国株式が堅調に推移した事を材料にドル/円は切り返し、109円台半ばまで上昇。週央23日、東京時間には前日からの流れが継続し、109円台後半まで上昇。しかしながらその後は、トランプ米大統領がメキシコ国境の壁建設の予算確保のため必要なら政府閉鎖も辞さないとの姿勢を示した事からドル売りが強まり、109円ちょうど近辺まで下落。翌24日、事前予想対比冴えない結果となった米7月中古住宅販売件数が材料視される場面もあったが、米金利の上昇する中でドル/円は切り返し、109円台半ばまで上昇。週末25日、注目されたジャクソンホールにおけるイエレンFRB議長講演の直前にドル/円は週高値となる109.85円まで上昇したものの、講演では金融政策に対する言及がなされなかったことを受け反転、109円台前半まで下落。その後も狭いレンジで推移し、109円台半ば水準にて越週した。

今週のドル/円相場はレンジ相場の継続を予想する。今週のマテリアルとして注目されるのはやはり週末金曜に予定される米8月雇用統計であろう。先週のイエレン議長講演において、金融政策に関する言及がなされなかった事を受け、市場の注目は再度経済指標等の数値データに移る事となろう。米雇用関係の数値データは、同インフレ関連データと比較すれば安定的に高水準を維持しているのは周知の通りであり、今回に関しても同様の結果が予想される。サプライズの切っ掛けとなる可能性は低いものの、注目度が高い指標であるが故に、基本的には相場変動を抑止する材料として捉えらるだろう。なお、その他の重要な経済指標・イベントとしては、29日(火)に本邦7月失業率および米8月消費者信頼感指数、30日(水)に米8月ADP雇用統計および米4~6月期GDP(2次速報)、31日(木)に本邦7月鉱工業生産(速報)および米7月個人収支、9月1日(金)に米8月雇用統計および米8月ISM製造業景況指数等の発表が予定されている。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/21~8/25)の値動き: 安値 108.64 円 高値 109.85 円 終値 109.43 円



2. ユーロ

(1) 今週の予想レンジ: 1.1800 ~ 1.2050 128.50 ~ 132.00 円

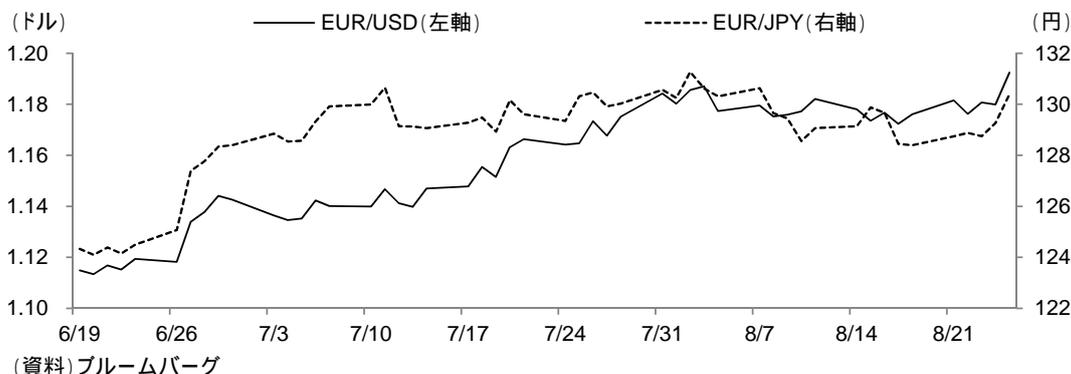
(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場は週後半に上昇する展開。週初21日に1.17台前半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる1.1731をつける展開。しかし、ドイツ連邦銀行の月報において同国の今年の経済成長率が従来予想を上回る可能性があると指摘されたことを背景にECBの利上げ期待が再燃し、1.18台前半まで急伸。22日、この日発表された独8月ZEW景況指数が市場予想を大幅に下回ると、ユーロ/ドルは1.17台半ばまで下落。23日、前日から軟調な値動きが続く中、この日予定していたドラギECB総裁の講演にて特段目新しい材料が示されなかったことで調整の動きを中心に売られていたユーロが買い戻される展開となり、ユーロ/ドルは1.18台前半まで反発。しかし、ジャクソンホールでの経済シンポジウムを前に一段と上値を迫る展開には至らなかった。24日も翌日に予定されるジャクソンホール会合でのドラギ総裁による講演を控えて様子見ムードが支配的となる中で1.18を挟んでの方向感に乏しい展開。25日、注目されたジャクソンホール会合におけるイエレンFRB議長による講演では特段目新しい材料が示されなかったことでドル売り優勢の展開となり、ユーロ/ドルは1.18台後半まで上昇。その後のドラギECB総裁による講演では、世界経済に対する前向きな見解が示される一方で、足許のユーロ高に対する懸念が示されなかったことでユーロ買いが進み、ユーロ/ドルは直近高値を上抜け1.1941(週高値)まで上伸。その後もユーロは底堅い推移が続き、結局ユーロ/ドルは1.19台前半、ユーロ円は130円半ばで越週した。

今週のユーロ相場は、底堅い展開を予想する。ジャクソンホール会合を通過し、足許の注目が9月7日(木)に予定するECB政策理事会に移る中、テーバリングに対する期待感を背景にユーロは底堅い展開が続きそうだ。先日公表された前回ECB政策理事会の議事要旨では、一部のメンバーから足許で急速に進んだユーロ高に対する懸念が示されたものの、ジャクソンホール会合におけるドラギ総裁による講演では、ユーロ高に対する懸念が示されず、世界経済環境に対する前向きな認識が印象的となった。市場参加者のユーロ高牽制に対する警戒感が緩む格好にユーロ/ドルは直近高値を更新しており、ユーロは引き続きの堅調推移が予想される。また米国では、トランプ米大統領による人種差別発言を背景に大統領の助言組織が解散するなどトランプ陣営内でも混乱が広がっており、政権運営にも不安が募る状況。税制改革に関する前向きな報道にドルが買われる場面が見られたが、米議会が休会している中では更なる進展の可能性は低く、ドルが上昇する展開は想像し難い。ドルは引き続き上値の重い展開が予想され、ユーロのサポート材料となりそうだ。北朝鮮リスクについては、週末に同国が再びミサイル発射実験を行ったものの、グアムを標的としたものでなかったことなどから、米国側が特段警戒感を高める展開には至っていない。だが、北朝鮮リスクが再び高まる中でユーロ/円が下落する格好にユーロが弱含む展開には注意したいところ。北朝鮮関連などの突発的なヘッドラインには引き続き警戒が必要ではあるものの、今週のユーロは基本的に底堅い展開を予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/21~8/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.1731 高値 1.1941 終値 1.1918
(対円) 安値 127.84 高値 130.43 終値 130.35



3. 英ポンド

(1)今週の予想レンジ: 1.2700 ~ 1.2950 139.00 ~ 142.00 円

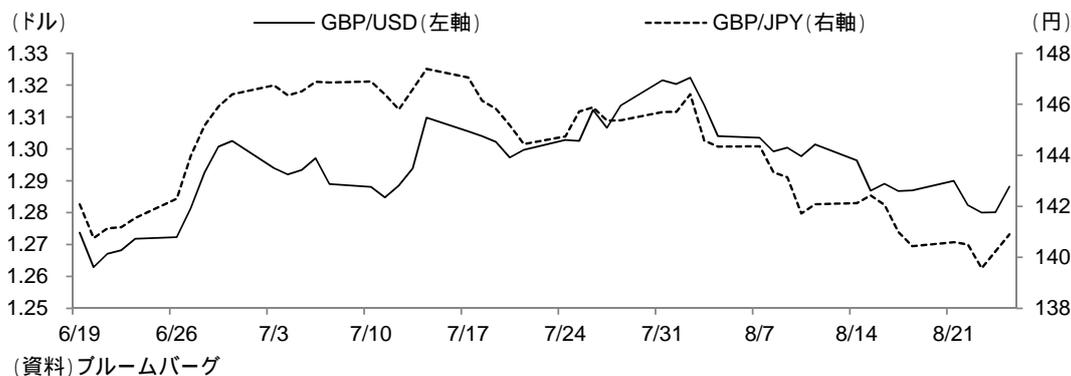
(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は、対ドル、対円で、時差を持ちながらも、下押しの先行から、週後半に掛けて反発。ただし、ポンド固有の要因による値動きには乏しく、対ユーロでの値動き(売られっぱなし)が物語る通り、週後半の反発もポンド高と言うよりはドル安、円安の結果と考えられた。22日のポンド下押しはユーロの下落に連れた値動きと考えられた(対ユーロではほぼ動かず)。ユーロ安の要因としては、ZEWの独・ユーロ圏8月調査の期待指数の低迷の他、ベルルスコーニ伊元首相が部分的なリラ復活を示唆したことなどが挙げられたが、同氏は既に政界を追放された人物であり、同氏が並行通貨に言及するのも目新しい話では全くないことから、些か無理が感じられた。23日のポンド続落は、ポンド/円の140円割れやユーロ/ポンドの新値(ポンド安値)更新をきっかけとしたテクニカルな値動きと考えられた。ユーロ上昇には独・仏・ユーロ圏の8月製造業指数の上振れが材料視された。同日、ポンドは対ユーロで0.92を割り込み、0.92365まで下落。昨年10月のアジア時間早朝のポンド急落(フラッシュクラッシュ)以来の安値を更新した。また、同日にはトランプ米大統領が「メキシコ国境の壁建設のための予算が確保できなければ、米政府機関閉鎖も辞さない(米債務上限を引き上げない)」姿勢を示したことでドルが全面安に振れていたが、ポンドだけは対ドルの上昇も鈍かった。週後半に向けて金融市場の関心はカンザスシティ連銀主催の経済シンポジウム(於ジャクソンホール)に集まっていたが、25日、注目されたイエレン米連銀議長の講演は、米金融政策の先行きに関する示唆がなく、週引けに掛けてドルの一段の下落を促した。

今週の英ポンド相場は、特に対ユーロ主導で、もう一段の下押しを予想。ポンド要因で最大の注目は29日から始まる英とEUの間の3回目の離脱交渉だが、交渉に大きな進展があるとは期待できない。8月に入り英政府はEU離脱に関する意見書を次々に発行したが、税関手続きやアイルランド/北アイルランド国境に関する提案などEU側との見解の隔たりは大きい。また、EU側は離脱交渉(金銭的支払い、在英EU市民・在EU英市民の離脱後の権利、アイルランド/北アイルランド国境の3点が焦点)に十分な進展があるまで、離脱後の関係(通商関係など)、離脱までの移行措置に関する交渉には応じない姿勢を明確にしてきたが、そもそも、将来的な英とEUの関係が定まらないまま、離脱交渉も進めようがない構造にある(上述3条件とも将来の関係次第で前提が大きく変わるはずだから)。交渉を通じてこうした両者の平行線状態が浮き彫りになることは、おそらくポンドにとって悪材料と読まれるのではないだろうか。交渉がまとまらないまま時間切れとなり通商交渉などがまとまらないまま離脱となれば、受ける経済的打撃はEUよりも英の方がはるかに大きくなるはずだからだ。英経済指標は、29日(火)のネーションワイド8月住宅価格指数、30日(水)の7月英住宅ローン承認件数などの住宅関連指標の他、1日(金)に8月英製造業PMIなどが予定されるが、市場の関心が高いとは言えない。英以外の要因では、トランプ米大統領の経済政策運営が引き続き攪乱要因になると見込まれる他、北朝鮮を巡る不安も完全に払しょくされたとは言えず、市場のリスク許容量や円相場動向に影響する可能性も考えられよう。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/21~8/25)の値動き: (対ドル) 安値 1.2774 高値 1.2916 終値 1.2892
(対円) 安値 139.31 高値 141.04 終値 140.90



4. 豪ドル

(1)今週の予想レンジ: 0.7850 ~ 0.8100 86.00 ~ 88.00 円

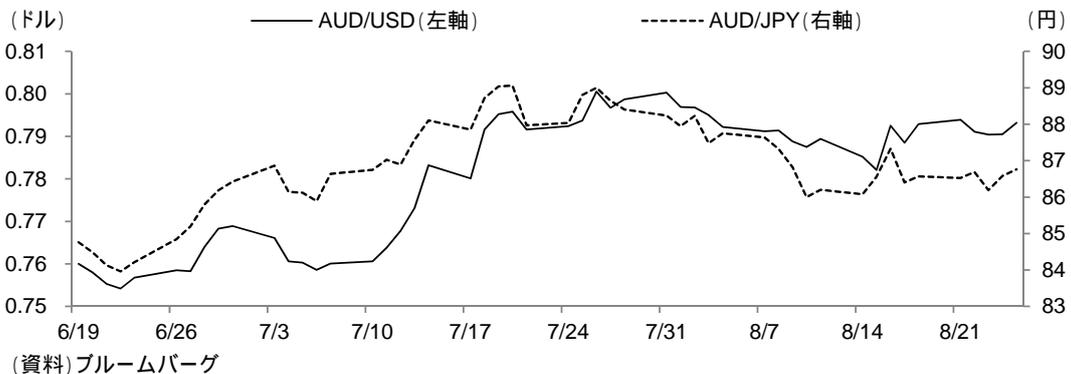
(2)ポイント(先週の回顧と今週の見通し)

先週の豪ドル/ドル相場は方向感の出ない中、上値の重い展開。豪ドル/円相場については比較的狭い範囲でレンジ推移に終始した。週初21日、0.79台前半でスタートした豪ドル/ドルは、取引材料に欠ける中、アジア時間に入り、欧州時間に入り、フロー主導で買いが先行し0.7950までじり高となるも、北米時間に入り、原油先物相場が下落する流れに上値は限定的となった。豪ドル/円は86円台半ばでスタート後、上下2、30銭程度の小動きが続いた。22日アジア時間は、前日同様、0.79台前半で動意なく推移後、欧州時間にドル買いが強まると、豪ドル/ドルは下落。一時、0.7898まで売られるも、週末に米ジャクソンホールで開催予定の経済シンポジウムの結果を見極めたいとの向きが多く、積極的に下値追いつとはならず0.79台を回復した。その間、豪ドル/円は、豪ドル/ドルの下落幅以上にドル/円の上昇幅が大きかったことから、86円台後半まで底堅く推移した。23日、朝方に発表されたニュージーランド政府予測2016/2017年度GDP・財政黒字の下方修正を受けてニュージーランドドルが急落すると、豪ドル/ドルも連れ安となり、一時、0.7882まで下落。その後、0.79近辺で横這い推移した。24日、様子見姿勢は依然として強く、アジア時間は0.79台前半で揉み合い推移が継続。欧州時間に入ると目立ったニュースなどはなかったものの、豪ドル/ドルはフロー主導で売りが強まると週安値0.7866まで一時的に下落。しかし、すぐに買い戻されて北米時間には再び0.79台に乗せた。豪ドル/円も一時は86円割れまで売られるも、すぐに86円台半ばと下落前の水準を回復した。25日、注目の高かったジャクソンホール経済シンポジウムにおいて、イエレンFRB理事は利上げペースに関する言及はなく、一部の市場参加者はタカ派なトーンを期待していたことからドル売りが優勢となる展開。豪ドル/ドルは0.79ちょうど近辺から週高値0.7954まで急伸した。その後、利益確定の売りが入り、0.79台前半と週初とほぼ変わらない水準で越週した。その間、豪ドル/円は86円台半ばで方向感が出ないまま越週した。

今週の豪ドル相場は方向感が出にくいながらも底堅い展開を予想する。豪州の経済指標としては30日(水)の7月住宅建設許可件数、31日(木)4~6月期民間設備投資等が発表される。他には、1日(金)中国7月Caixin製造業PMI、米8月雇用統計も注目される。足許、トランプ政権への不信感などを背景にドルはやや弱含んでおり、ジャクソンホールでの経済シンポジウムにおいても米利上げペースに言及されなかったことから、目先、ドル買い戻しのきっかけは見当たらない。また、鉄鉱石や石炭などの資源価格は高止まりしている。以上2点が豪ドルのサポート材料だが、為替市場全体のボラティリティは低下しており、大きな方向感が出るとは考えづらく、先週同様、豪ドル/ドルは0.79台、豪ドル/円は86、87台を中心としたレンジ内での底堅い値動きがメインシナリオと予想する。リスクシナリオとしては、地政学リスクの悪化、中国経済指標の弱含みや強い米雇用統計が挙げられよう。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/21~8/25)の値動き: (対ドル) 安値 0.7866 高値 0.7954 終値 0.7934
(対円) 安値 85.94 高値 86.98 終値 86.76



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。